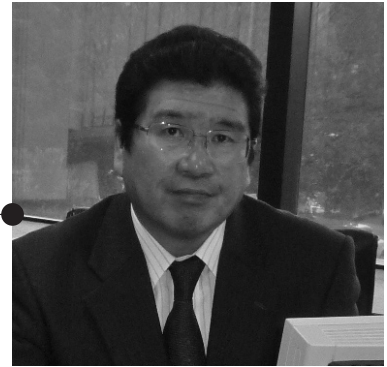


# DEBUT 首長

千葉県白井市長 伊澤 史夫氏



いざわ・ふみお 1955年生まれ。78年城西大学卒、旧白井町役場に入庁。健康福祉部長、市民経済部長などを歴任。2011年5月に初当選。趣味は太極拳。56歳。

## 北総線、公費負担ゼロ目指す 仕分け駆使して財政健全化

**千葉県白井市** 千葉北西部に位置する。1979年に東京都心と結ぶ北総線が開通し、千葉ニュータウンの入居が始まってから人口が急増。2001年に市制施行。人口約6万2千人。

——**運賃が割高な北総線への補助金支出を巡り、前市長と市議会が対立する混乱が続いた。**

2009年11月、公費負担を前提に北総線の運賃を約5%値下げする県・沿線自治体の合意書に対し、市議会が慎重な対応を求める決議を採択した数日後に、前市長が調印したことが発端だった。その後、議会が補助金を盛り込んだ予算案を否決して、前市長が専決処分するなど対立が続き、4月に前市長が不信任決議を受けて失職した。お互い対話がもう少し必要だったと思う。

運賃値下げを求める市民の声は大きい。今は補助金を支出しないと値下げできない。4月の市議選で補助金容認派が過半数になり、5月の市長選でも補助金支出を訴えた私と前市長の

得票（計約1万4千票）が多数を占めた。それでも反対派の8300票は重いと受け止めている。7月、市議会で北総線の補助金3450万円を含む補正予算が可決された。私は議会と対立しようとは考えていない。共に「市民のために」という目線で真摯に向き合っていく。

——**「6年目以降は公費負担をなくす」との公約実現の道筋は？**

白井市単独では難しい。隣の印西市と話し合い、運賃値下げのための県・沿線市の協議会設置を県に要望した。まず沿線市が固まって、県と一緒に北総鉄道や親会社の京成電鉄に働きかけていきたい。現在は白井市を通過している成田空港へのアクセス特急の停車も粘り強く求めていく。

もうひとつ大事なものは、北総線の利用者を増やすことだ。千葉ニュータウンの早期完成と一層の企業誘致が必要になる。

——**今後のまちづくりと行財政改革の目標は。**

白井市は千葉県内54市町の中で人口増加率が最も高く、子

育て世帯が多い。12年度予算案では、子どもの通院費助成を現在の小学3年生までから6年生までに拡充する。工業、商業のほか農業も加えた産業振興条例を制定し、バランスのとれた発展を目指したい。

人口増とともに増加してきた市税が、09年度決算から減少に転じている。財政の弾力性を示す経常収支比率は10年度で91.5%と、10年連続で90%を超えた。第4次総合計画後期基本計画（11～15年度）に基づき、将来負担比率を現在の26.1%から15年度には25%以下に抑えたい。職員数も412人から390人台に削減する。

10月に市で初めての事業仕分けを行い、8事業のうち2事業が「再検討・見送り」、残る6事業も「要改善」と判定された。市にとって厳しい結果となったが、来年度予算にも反映できるものは反映させて財政健全化に努めていく。

（聞き手は地方部 杉野 耕一）